

のぞいてみよう！

能勢町のお財布事情

令和3年度決算

能勢町 総務部 理財課



もくじ

はじめに ～「財政」ってなんだろう？～ 2

① 令和3年度の決算はどうなっているの？

- 歳入（収入）について 4～5
- 歳出（支出）について 6～7
- どんな事業にお金を使ったの？ 8
- 過去と比べてみると？ 9

② 他のまちと比べてみると？

- 貯金はどれくらいあるの？（基金残高） 11～12
- 借金はどれくらいあるの？（地方債残高） 13
- 自由に使えるお金の割合はどれくらい？（経常収支比率） . 14
- 借金は返済していけるの？（実質公債費比率） 15
- 将来の負担になる借金の割合は？（将来負担比率） 16
- これからどうなっていくの？（収支見込み） 17

③ 能勢町の課題ってなに？

- ①人口減少 19
- ②高齢者の交通対策 20

④ 持続可能な行財政運営を目指して！

持続可能なまちづくりを実現しよう！ 22

おわりに ～住民のみなさまへ～ 23

わたしたちの町の財政について
一緒にみていきましょう！！



お浄（じょう）

るりん

彼女たちは、わがまちの伝統芸能である能勢人形浄瑠璃（じょうるり）をPRしてくれる能勢町公認キャラクターです。

イベントへの出演など、様々な方法で能勢町のPR活動を行っています。

ぜひ応援してくださいね！！

はじめに ～「財政」ってなんだろう？～



「財政」ってなんですか？

地方公共団体が、住民の皆さまに様々なサービスを提供したり、事業を進めるためには、たくさんのお金が必要となります。
そのお金をどのように調達して、どのように使うか決めることを「財政」と言います。



黒太(くろた)



この資料の目的はなんですか？

本町の「財政」を知ることは、『能勢町のお財布事情』を知る、ということになります。それは同時に、本町の課題も分かり、行政と住民の皆さまの双方にとって、とても大切なことだと考えています。
この資料は、財政事情を分かりやすく解説し、本町の現状と課題について、共有することを目的としています。



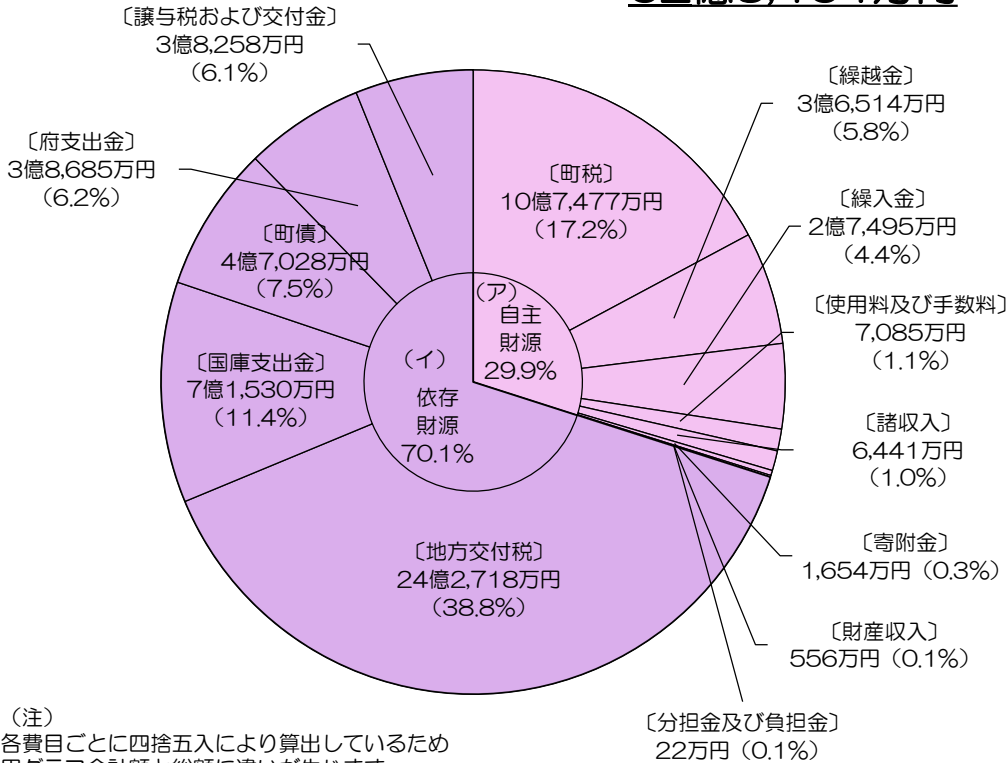
①令和3年度の決算は
どうなっているの？



歳入を見てみよう！

歳入

62億5,464万円



解説

歳入（1年間の収入）には、町税をはじめ、国からの地方交付税や国庫支出金・府支出金などがあります。その他にも、町債や繰入金など様々な種類の収入によって成り立っています。

グラフを見ると、町税が約17%・地方交付税が約39%・国庫支出金が約11%・町債が約8%となっており、この4種類だけで全体の3/4を占めています。

収入はさらに、(ア) 自主財源と(イ) 依存財源に分けられます。自主財源が多いほど、自主的で安定した行政活動ができることとなります。本町の自主財源は、歳入全体の約3割を占めています。残りの約7割は依存財源になります。

令和3年度の歳入は、前年度よりも**16億円超（約20%）減少**しています。その主な要因は、依存財源である国庫支出金の減少（8億8,334万円）および、町債の減少（8億2,779万円）となっています。

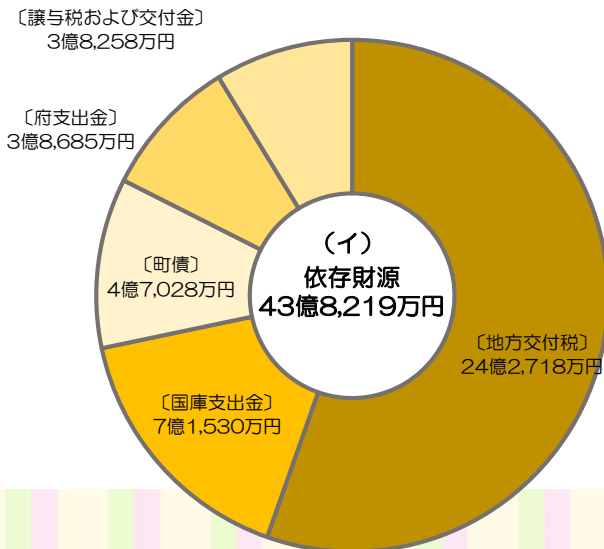
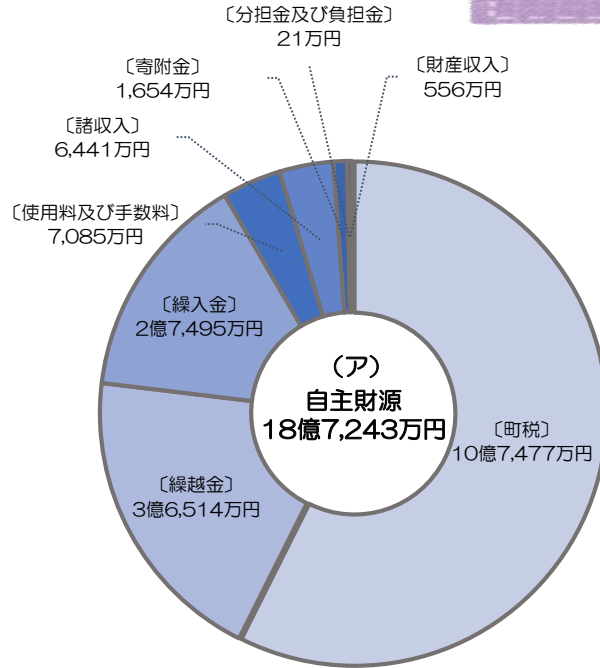
用語説明

- 【町債】 …………… 施設整備や災害復旧をするときに、財源を確保するために借り入れるお金
- 【繰入金】 …………… 経済情勢の悪化や緊急時、計画的な事業の実施時において、事前に積み立てている基金を充てるお金
- 【地方交付税】 …… 地方自治体ごとの税収格差を是正するため、国から配分されるお金
- 【自主財源】 ……… 町税や使用料、手数料、寄附金など、町が自主的に収入できるお金
- 【依存財源】 ……… 国や府から決められた額を交付されるお金

歳入って、町に入ってくるお金のことだよね。

たとえるなら年収ってことかしら。それなら一年の出費も気になるわね。

歳入を分析してみよう！



(ア) 自主財源 …P4「用語説明参照」

自主財源の約57%は町税が占めています。近年は人口の減少とともに、町税が減少する傾向にあります。令和3年度の町税は、前年度から6,407万円（5.6%）減少しています。さらに、現状から推測すれば、今後も町税は減少していくものと考えられることから、財源確保に向けた、人口増加策や企業の誘致などの取り組みを考えなければなりません。

繰入金と繰越金をあわせた6億4009万円は、前年度もしくはこれまでの財政運営により生まれた収支を基金（貯金）へ積み立てるなどし、本町が確保していた財源です。

令和3年度は、公共施設再編整備事業に充てるために財政調整基金を2億円取り崩しましたが、令和2年度に繰り入れた西能勢財産区の清算に伴う約1億8千万円の繰入金が、令和3年度では皆減となったため、自主財源の総額は前年度から2億1,961万円（約10%）減少しました。

自主財源のほとんどは、上記3つの財源（計17億1,486万円、約92%）で成り立っています。そして、繰入金も繰越金も、もとは町税をやりくりした結果生み出されたものですから、やはり、今後も町税の確保が必要不可欠ということになります。

(イ) 依存財源 …P4「用語説明参照」

本町は、依存財源の割合が全体の歳入のうち約70%と高く、その中でも地方交付税は5割以上（約55%）を占めており、財政を運営していく基盤となっています。

町債や国庫支出金・府支出金は、基本的に、特定の事業を行うために使用するお金です。そのため、本町にとってその事業が本当に必要かどうかを見定め、有効に活用する必要があります。

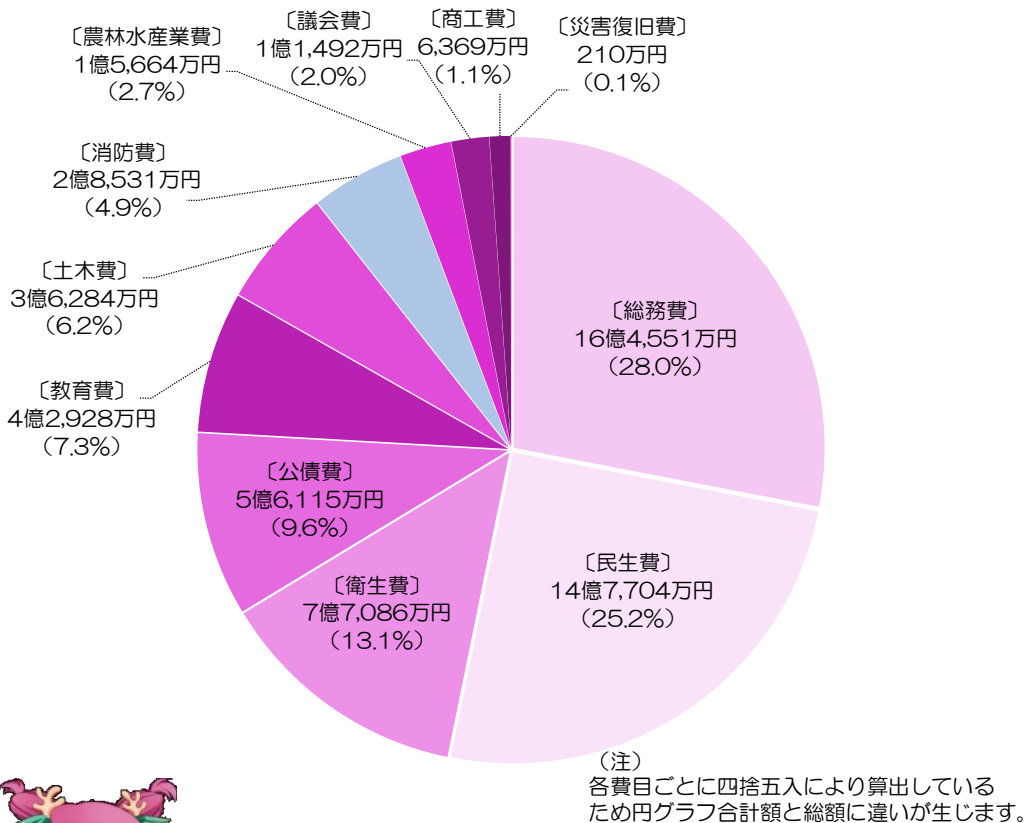
令和3年度では、令和2年度と比較して地方交付税が約2億5,000万円増加しましたが、公共施設再編整備事業費の減少にともなう町債の減少等により、依存財源総額としては約14億円減少しました。

依存財源の割合が高い本町にとっては、行政サービスの向上に努めるために、今後も、これらの財源を有効に活用していく必要があります。

歳出を目的別にみてみよう！

歳出（目的別）

58億7389万円



町が何にお金を使ったのかわかるね。
総務費と民生費っていうのが多いみたいけど…。

解説

歳出（1年間の支出）は、目的別と性質別の2つに分けられます。

目的別とは、各行政分野ごとに分類したもので、町役場の各部・課ごとの仕事の比重を知ることができる分類方法と言えます。

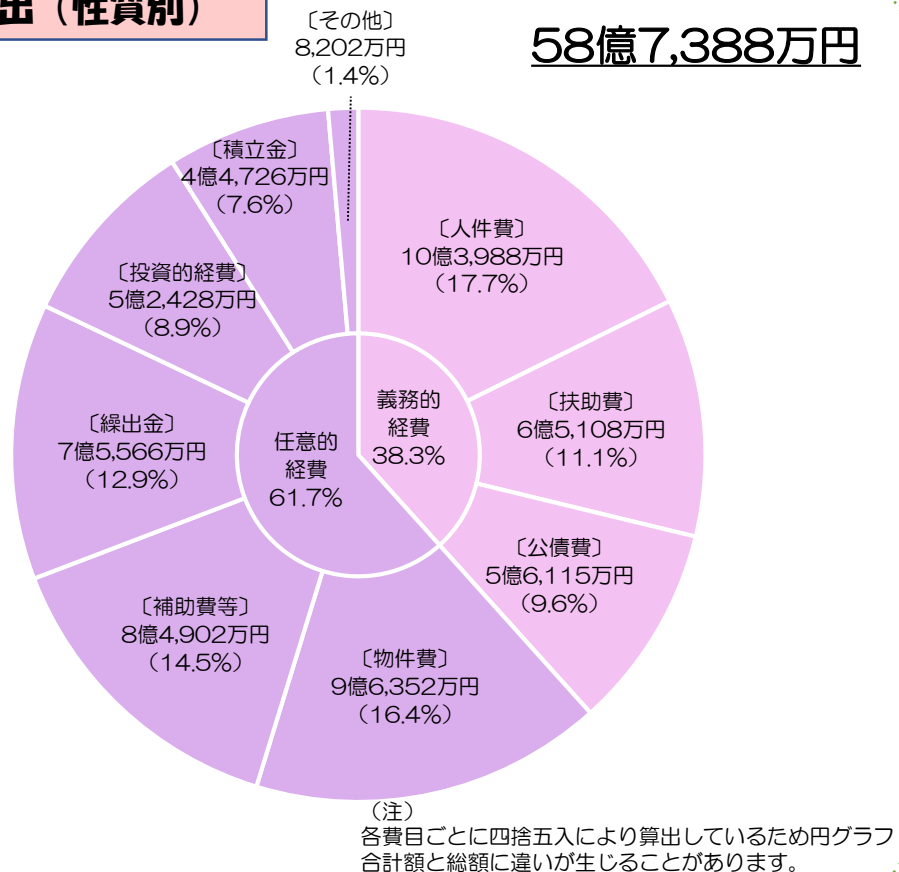
予算をどのような目的で使ったかという視点でみると、公共施設再編整備事業が組まれた総務費が16億4,551万円と、全体の約3割となっており、一番多くを占めています。住民税非課税世帯等臨時特別給付金事業を含む、福祉関係予算が組まれている民生費も引き続き、全体に占める割合は約25%と高く、歳出の半分以上をこの2つの費用が占めています。

用語解説

- 〔総務費〕 …… 戸籍管理、選挙、交通安全、町税の賦課徴収などにかかるお金
- 〔民生費〕 …… 子どもや高齢者、障がい者などの福祉サービスにかかるお金
- 〔消防費〕 …… 消防、防災事業などにかかるお金
- 〔公債費〕 …… 町の借金を返済するためのお金

歳出を性質別にみてみよう！

歳出（性質別）



解説

性質別とは、経費を人件費や物件費などに分類することをいいます。

その中でも、人件費・扶助費・公債費は、「義務的経費」と言い、その支出が義務づけられ、簡単に削減することができない費用を指します。

そのほか「投資的経費（道路、橋りょう、公共施設建設事業、災害復旧事業など）」と、「その他の経費（物件費、補助費等、繰出金など）」に分類され、この2つをあわせて「任意の経費」と言います。

義務的経費が増加すると、任意の経費に使えるお金が減少します。つまり、自由に使えるお金が少なくなってしまう、ということになります。

令和3年度では子育て世帯への臨時給付金給付事業によって扶助費が増え、公共施設再編整備事業費の減少により投資的経費が大幅に減ったことで、令和2年度と比べると、義務的経費が占める割合が大きくなっています。

用語解説

- 【人件費】 …… 職員の給与・退職手当や議員報酬等
- 【扶助費】 …… 高齢者・障がい者・児童などを援助するためのお金
- 【補助費等】 …… 他の地方公共団体や国、法人等に対する助成金や負担金
- 【繰出金】 …… 一般会計と特別会計などの会計間で、一方の会計の収支不足を補うために、他方の会計に支出するお金
- 【物件費】 …… 物品の購入や光熱水費、委託料など、消費的性質のお金

私たちの生活に置き換えると、食費などの払わないと生活していけない費用が義務的経費ね。
町にとっての欠かせない義務的経費って何かしら？

どんな事業にお金を使ったの？

旧歌垣小学校再編整備事業・・・2億5,608万円

旧歌垣小学校校舎を有効活用し、新たな施設として運用していくため、再編整備を行いました。

ふれあいプラザはデイサービスや、住民サービスセンター、国民健康保険診療所など、複数の施設を内包した複合施設として、令和5年4月から運用開始予定です。

※当事業費は、R3年度からR4年度にかけて実施する建築工事関係費のうちR3年度実施分です。



ひとつの建物で
いろんなことが
できると便利だね。



さとおか防災コミュニティセンター新築事業・・・8,771万円

(さとおか防災コミュニティセンター外観)



いざというときも、
安心だね。

災害発生時等の災害対策活動拠点として、令和3年7月に、さとおか防災コミュニティセンターが竣工しました。

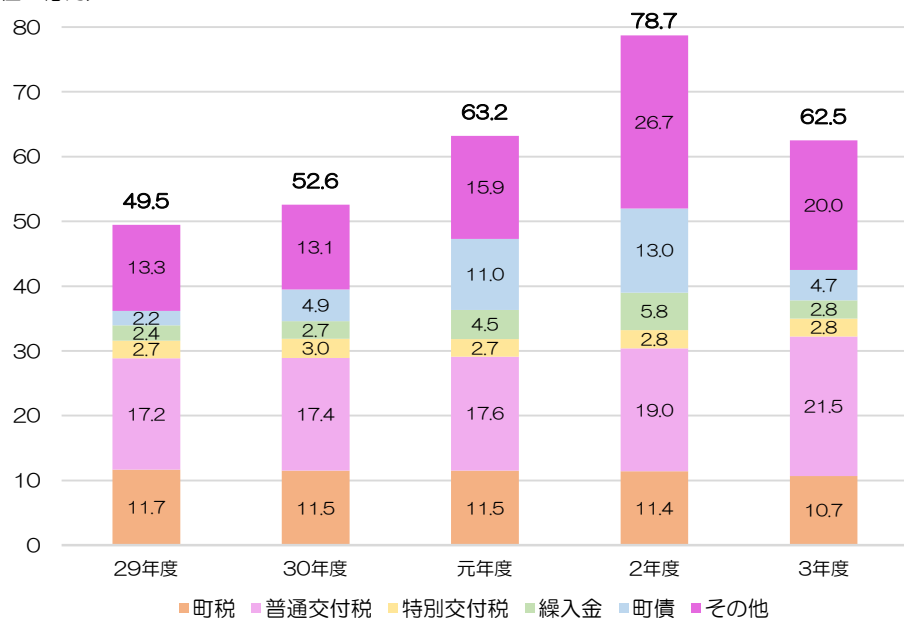
災害発生時の防災拠点としてはもちろんのこと、平常時にはコミュニティセンターとして、世代を問わず、交流の場として活用していただけます。

※当事業費は、R2年度からR3年度にかけて実施する建築工事関係費のうちR3実施分です。

過去と比べてみると？

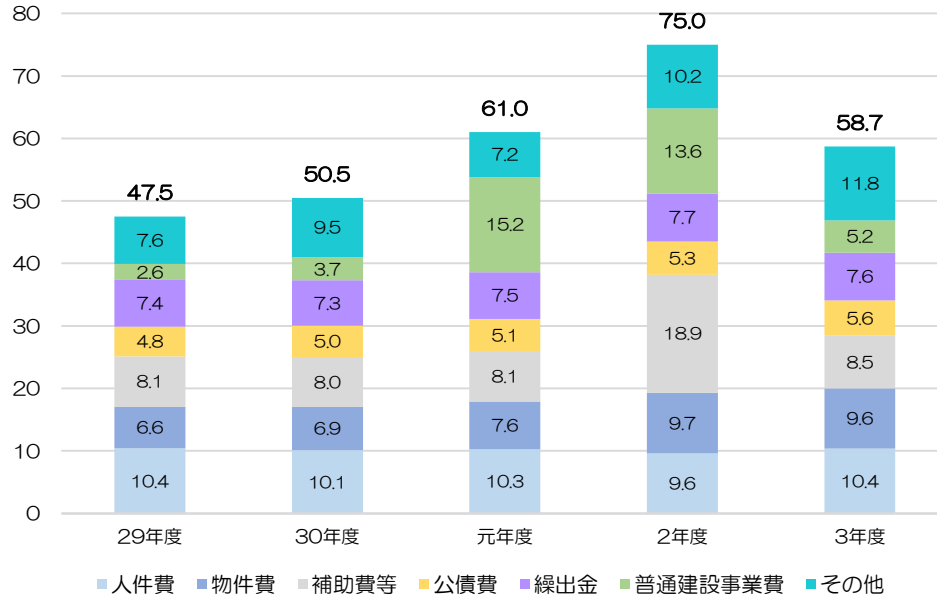
歳入推移

(単位：億円)



歳出（性質別）推移

(単位：億円)



解説（歳入）

令和元年度から、公共施設再編整備事業に着手し役場新庁舎や消防新庁舎の建設に本格的に取り掛かったことから、町債や繰入金が増加してはいましたが、それらの事業も完了し、歳入額は例年の水準に戻りつつあります。

町税は昨年度よりも減少していますが、普通交付税が増加しているため、臨時的要素を除いた歳入全体としては横ばいの状態となっています。

解説（歳出）

役場新庁舎や消防新庁舎の建設が完了したため、普通建設事業費が昨年度よりも減額し、特別定額給付金事業のため増額されていた補助費等についても減額されたため、歳出全体としては歳入と同様に例年の水準に戻りつつあります。

しかしながら令和2年度から新型コロナウイルス対策に係る臨時の事業が実施されているため、物件費が高い傾向にあります。

②他のまちと比べてみると？



貯金はどれくらいあるの？（基金残高）①

基金の設置状況

※R3年度末残高

財政調整基金……………14億2,798万円

- ・年度間の財源の不均衡を調整し、計画的な財政運営を行うための基金。（S41年3月設置）

環境基金……………674万円

- ・環境保全の活動などに充てるための基金。（H14年3月設置）

地域農業活性化基金……………435万円

- ・農業振興などに充てるための基金。（H15年7月設置）

地域福祉基金……………8,215万円

- ・地域福祉の振興に充てるための基金。（H3年12月設置）

町営住宅管理基金……………1,043万円

- ・町営住宅の維持管理に充てるための基金。（H16年3月設置）

退職手当基金……………9,463万円

- ・退職手当に充てるための基金。（H4年3月設置）

災害対策基金……………3,848万円

- ・災害が発生した時に緊急対応に充てるための基金。（H7年3月設置）

芸術文化振興基金……………1,785万円

- ・伝統芸能等能勢文化の創造に充てるための基金。（H6年3月設置）

森林環境譲与税基金……………2,259万円

- ・森林環境の整備に充てるための基金。（R元年9月設置）

能勢町西能勢振興基金……………1億8,348万円

- ・西能勢財産区が存した地域の住民福祉の増進などに充てるための基金。（令和2年12月設置）

解説

町には全部で10の**基金（貯金）**があり、大きく分けると次の2種類になります。

①財政調整基金

不測の事態による突然の支出や、景気の悪化によって収入が減ったときなど、財源が不足する年度に活用するものです。

②特定目的基金

決まった目的に沿って、計画的に事業等が実施できるよう、特定の使い道に限って取り崩すことができるものです。

基金残高の合計は、令和3年度末では**18億8,868万円**、そのうち財政調整基金は14億2,798万円で、令和2年度末と比べると、1億8,021万円増加しています。

どうして貯金するんだろう？

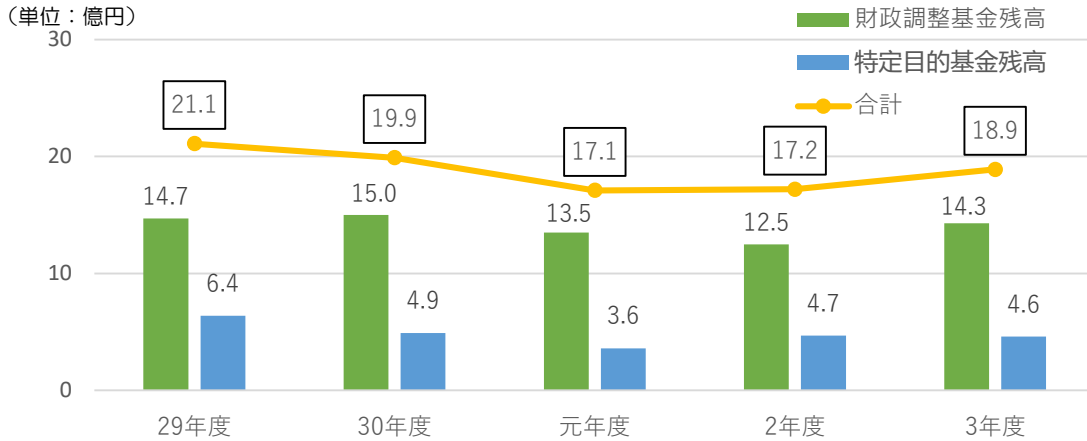
町税などの収入は、経済状況により変化するため、常に一定ではありません。また、地震や台風などの災害や、急激な経済情勢の悪化など、不測の事態が生じる年もあります。

そのような時であっても、自治体は安定した住民サービスを継続して提供していく必要があります。その財源として活用できるよう、貯金をしています。

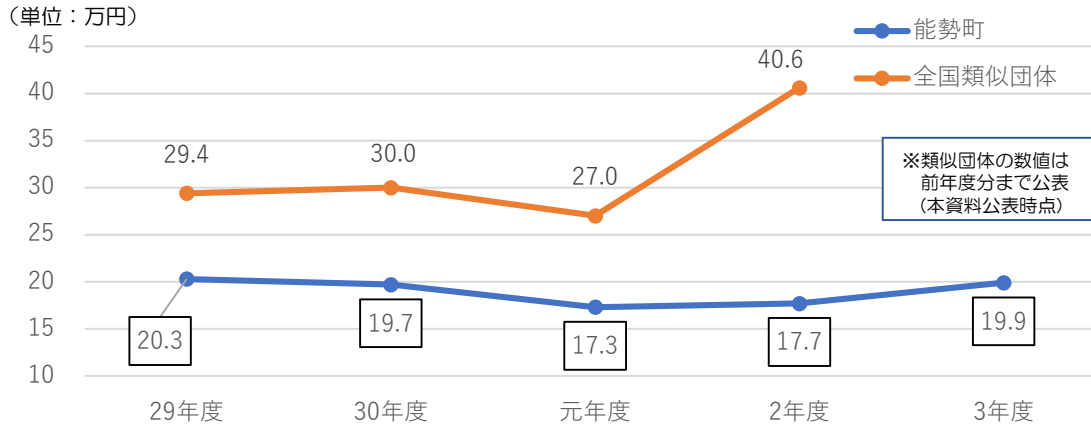


貯金はどれくらいあるの？（基金残高）②

基金残高の推移比較



一人当たり基金残高の推移比較



解説

令和3年度末の**財政調整基金の残高**は、前年度末に比べて、約**1.8億円**増加しました。この要因としては、普通交付税が追加交付されたことで、積立額が取り崩し額を上回ったことが挙げられます。

特定目的基金については昨年度から横ばいとなっています。

本町は**一人当たり基金残高**が全国類似団体と比較して低い傾向にありますが、これには特定目的基金が低いことが影響しています。さらに、全国類似団体において能勢町の市町村類型が令和2年度より「Ⅲ-2」から「Ⅱ-2」へと変わったため大幅に差が開く形になりました。

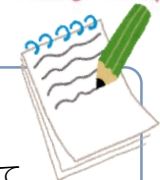
しかし、住民一人当たりの基金残高は、前年度末に比べて約**22,000円**増加しており、改善しつつあります。

用語説明

【全国類似団体】

総務省により、人口と産業構造の2要素の組合せによって分類される類型区分。

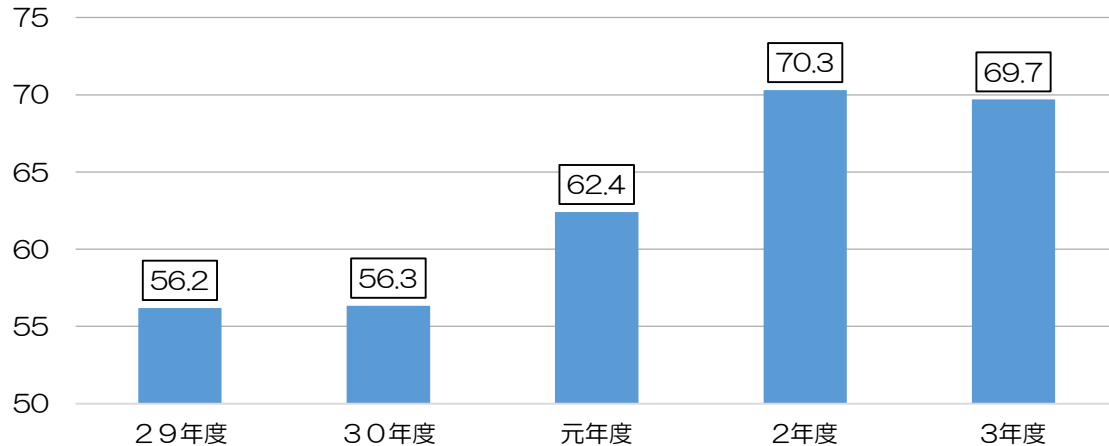
本資料では、本町との数値比較のために使用しています。



借金はどれくらいあるの？（地方債残高）

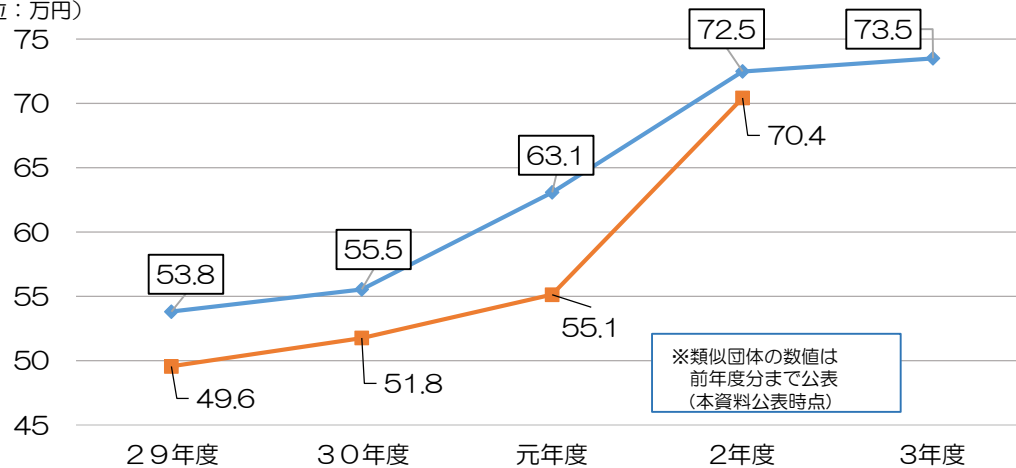
地方債残高の推移

（単位：億円）



一人当たり地方債残高の推移比較

（単位：万円）



解説

町債（地方債）は、建物や道路など、何年も使うような大きな施設の整備事業や、災害など緊急に対応しないといけないときに、町独自に借りるお金のことです。

新学校建設により借入れを行ったため、平成27年度には、地方債残高は60億を超えていましたが、その後、できる限り借入れを控え56億円まで減少しました。

令和元年度より公共施設再編整備事業に本格的に着手し庁舎建設事業など大規模な建設事業を実施したことにより令和2年度には70億円を超えましたが、令和3年度には少し減少しています。

一人当たり地方債残高については、令和2年度より能勢町の市町村類型が令和2年度より「Ⅲ-2」から「Ⅱ-2」へと変わったため、令和元年度までは約8万円あった差が、令和2年度では約2万円まで縮みました。

町人口が減少しているため、一人当たりの負担額は多くなる傾向にあります。

どうして借金するんだろう？

道路や学校などの公共施設は、数十年利用されます。

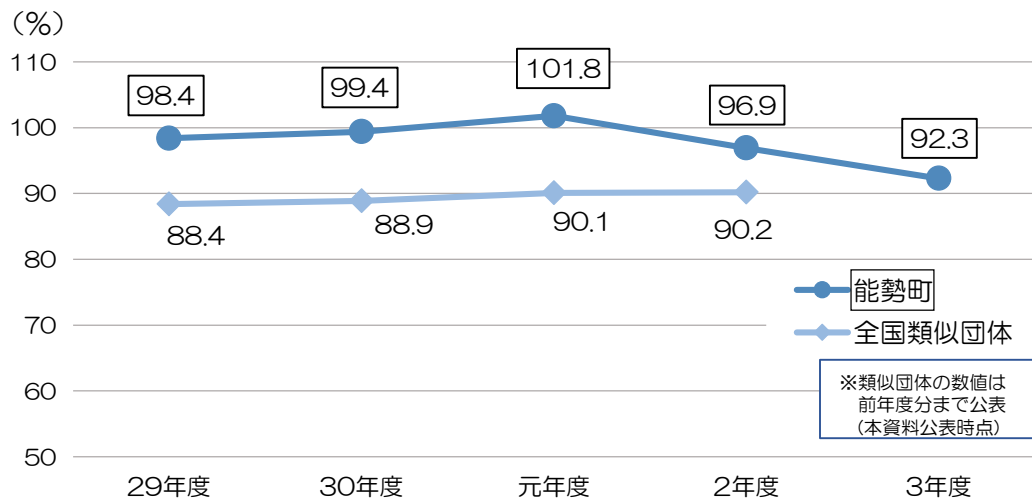
建設した世代の住民だけで建設費を負担すると不公平になるので、分割払いにすることで負担を平等にしています。

また、支払いを均等にすることで、公共施設を建設した年度に、他の事業ができなくなることを防ぐ役割もあります。



自由に使えるお金の割合はどれくらい？（経常収支比率）

経常収支比率の推移



町税や地方交付税などの毎年度見込まれる収入（経常収入）が、人件費や公債費などの義務的な経費（経常経費）に充てられる割合を表す比率です。

「自由に使えるお金がどれくらいあるか」を示す指標であり、この比率が高くなるほど、新しい事業や貯金に使えるお金が少ない状態と言えます。



財政に余裕があるかどうか分かるんだね！

私たちの町は、全国類似団体と比べて数値が少し高いけど、今年は少し下がったみたいだね。



解説

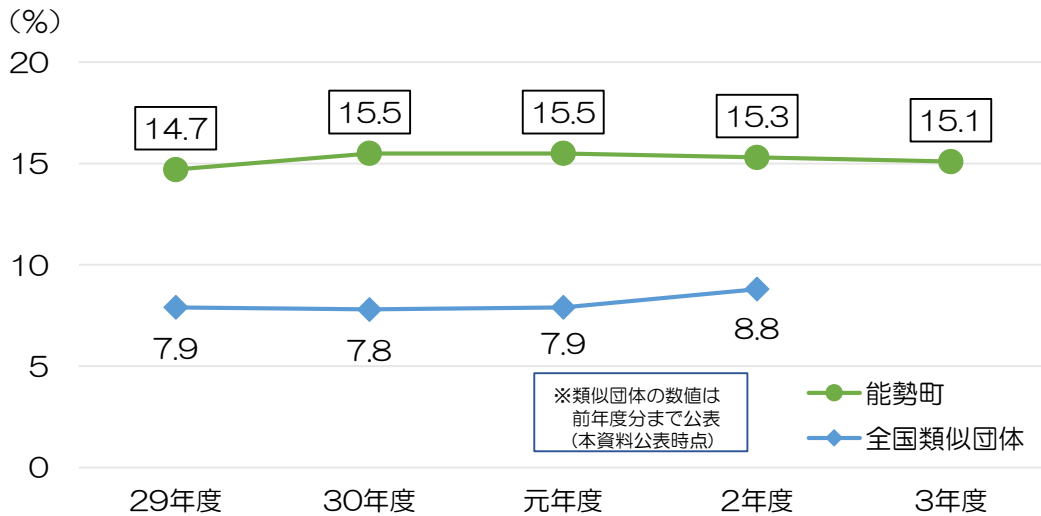
令和元年度の経常収支比率は101.8%となり、本町で初めて100%を超える結果になりましたが、令和2年度は4.9%、令和3年度は4.6%減少しました。

令和3年度において経常収支比率が改善したのは、地方交付税の額が増えたことによる、経常収入の増が影響したことが理由です。しかし来年度以降も同額以上の交付税が見込まれるわけではないため、この改善は一時的なものである可能性があり、楽観視できるものではありません。

全国類似団体と比べて、高い傾向にある主な要因は、ごみ処理施設（豊能町・兵庫県川西市・猪名川町と運営している国崎クリーンセンター）や常備消防（豊中市と共同で実施）のような、広域化事業による負担金が多いことや下水道事業特別会計への繰出しが多いことです。

借金は返済していけるの？（実質公債費比率）

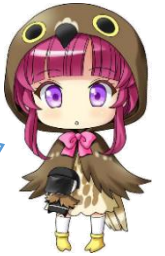
実質公債費比率の推移



町債の返済金（公債費）が、その年度の収入に占める割合を表す比率です（数値は3ヶ年平均）。

「借金返済にどのくらい支払っているのか」を示す指標であり、この比率が高くなるほど、借金返済の支出が多く、財政の硬直化が進んでいる状態と言えます。

上手く資金繰りができているかどうか分かるってことね！
私たちの町は、全国類似団体よりも数値が少し高いなあ。
今後はどうしていくんだろう？



解説

令和3年度の実質公債費比率は15.1%で、前年度から0.2%改善しています。

この数値が18%を超えると危険信号とみなされ、町債の発行について制限を受けることになってしまいます。

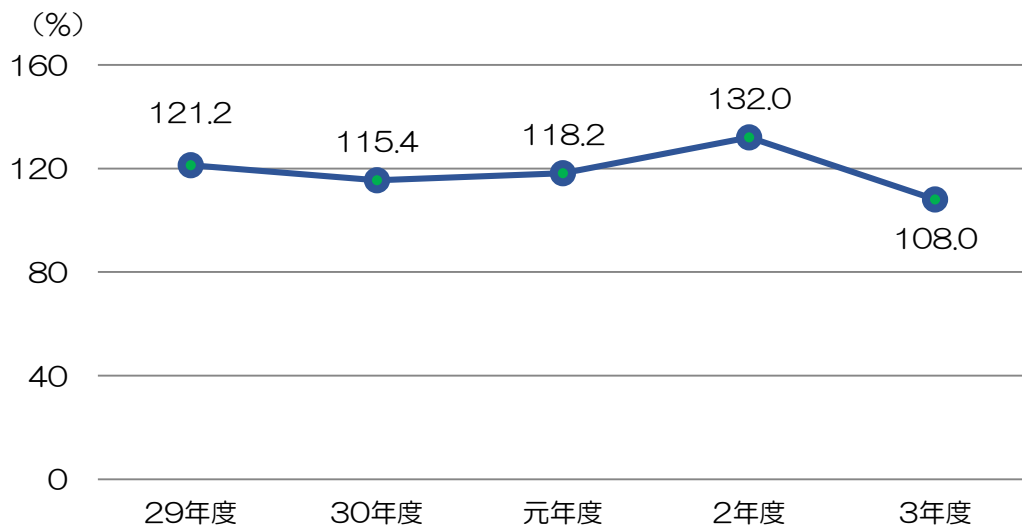
本町は、18%の危険基準は超えていないものの、全国類似団体と比較すると数値が高い状態となっています。

そのため、今後としては、新規事業を行うときは、有利な起債の活用を図るとともに、発行額を抑制しつつ、企業誘致を進めるなど、税込確保を図っていき、地方債に過度に依存しない財政運営に努める必要があります。



将来の負担になる借金の割合は？（将来負担比率）

将来負担比率の推移



この先、負担しなければならないお金（町債など）が、その年度の収入に占める割合を表す比率です。

「将来的に財政が圧迫されるか」を示す指標であり、市町村では**350%が危険基準**とされています。

私たちの町は、危険基準の**350%**よりも数値が低いけど、**100%**は超えてるのね。比率は悪化傾向だけど、将来、財政は圧迫されたりしないの？



解説

令和3年度の将来負担比率は**108.0%**で、前年度に比べ、**24%改善**しました。

令和元年度より公共施設再編整備事業に伴う町債の発行が増加していたため悪化傾向にありましたが、令和3年度では普通交付税が増加したこと、財政調整基金の増などの理由から改善方向に一転しました。

しかし来年度以降も現在取り組んでいる公共施設再編整備事業にて町債を発行することを考慮すると、現状の比率が数年で改善することは見込めません。

この数値が350%を超えると、危険信号とみなされ、早急に財政運営の健全化に取り組まなければなりません。

本町は現在、350%の危険基準は超えていませんが、100%は超えているため、将来負担を見据えて、建設事業を計画的に実施することによって、財政の健全化に努めていく必要があります。

これからどうなっていくの？（財政収支見通し）



(単位:百万円、%)

令和13年度までの収支見込

歳入では町税が特に減っていくよね。町税は自主財源の大部分を占めるから、自主的な活動に影響がないか心配だわ。

【歳入】

区分	2年度		3年度		4年度		5年度		6年度		7年度		8年度		9年度		10年度		11年度		12年度		13年度	
	決算額	増減率	決算額	増減率	決見額	増減率	決見額	増減率	決見額	増減率	決見額	増減率	決見額	増減率	決見額	増減率	決見額	増減率	決見額	増減率	決見額	増減率	決見額	増減率
町税	1,139	△ 1.0	1,075	△ 5.6	1,064	△ 1.0	1,042	△ 2.1	1,006	△ 3.5	984	△ 2.2	962	△ 2.2	931	△ 3.2	911	△ 2.1	893	△ 2.0	864	△ 3.2	847	△ 2.0
地方交付税	2,179	7.3	2,427	11.4	2,399	△ 1.2	2,464	2.7	2,448	△ 0.6	2,457	0.4	2,395	△ 2.5	2,397	0.1	2,405	0.3	2,392	△ 0.5	2,358	△ 1.4	2,288	△ 3.0
普通交付税	1,904	8.2	2,146	12.7	2,129	△ 0.8	2,184	2.6	2,168	△ 0.7	2,177	0.4	2,115	△ 2.8	2,117	0.1	2,125	0.4	2,112	△ 0.6	2,078	△ 1.6	2,008	△ 3.4
特別交付税	275	1.5	281	2.2	270	△ 3.9	280	3.7	280	0.0	280	0.0	280	0.0	280	0.0	280	0.0	280	0.0	280	0.0	280	0.0
繰入金	578	28.7	283	△ 51.0	95	△ 66.4	157	65.3	335	113.4	320	△ 4.5	64	△ 80.0	86	37.5	236	168.2	76	△ 67.8	96	26.3	186	93.8
その他	3,973	48.1	2,469	△ 37.9	2,595	5.1	1,510	△ 41.8	1,748	15.8	1,464	△ 16.2	1,467	0.2	1,449	△ 1.2	1,443	△ 0.4	1,471	1.9	1,467	△ 0.3	1,561	6.4
歳入合計	7,869	24.7	6,254	△ 20.5	6,153	△ 1.6	5,173	△ 15.9	5,537	7.0	5,225	△ 5.6	4,888	△ 6.4	4,865	△ 0.5	4,995	2.7	4,832	△ 3.3	4,785	△ 1.0	4,882	2.0

【歳出】

区分	2年度		3年度		4年度		5年度		6年度		7年度		8年度		9年度		10年度		11年度		12年度		13年度	
	決算額	増減率	決算額	増減率	決見額	増減率	決見額	増減率	決見額	増減率	決見額	増減率	決見額	増減率	決見額	増減率	決見額	増減率	決見額	増減率	決見額	増減率	決見額	増減率
人件費	957	△ 7.1	1,040	8.7	982	△ 5.6	1,002	2.0	975	△ 2.7	994	1.9	1,037	4.3	1,006	△ 3.0	1,141	13.4	991	△ 13.1	1,017	2.6	984	△ 3.2
うち退職手当	65	△ 36.9	103	58.5	10	△ 90.3	13	30.0	21	61.5	0	△ 100.0	28	皆増	3	△ 89.3	133	4,333.3	0	△ 100.0	21	皆増	0	△ 100.0
物件費	969	28.3	964	△ 0.5	1,026	6.4	873	△ 14.9	873	0.0	873	0.0	873	0.0	873	0.0	873	0.0	873	0.0	873	0.0	873	0.0
補助費等	1,885	133.3	849	△ 55.0	892	5.1	747	△ 16.3	727	△ 2.7	704	△ 3.2	687	△ 2.4	684	△ 0.4	685	0.1	678	△ 1.0	657	△ 3.1	643	△ 2.1
公債費	531	3.5	561	5.6	594	5.9	597	0.5	567	△ 5.0	517	△ 8.8	483	△ 6.6	444	△ 8.1	458	3.2	455	△ 0.7	409	△ 10.1	375	△ 8.3
繰出金	774	2.9	756	△ 2.3	812	7.4	825	1.6	823	△ 0.2	837	1.7	840	0.4	834	△ 0.7	834	0.0	831	△ 0.4	827	△ 0.5	816	△ 1.3
普通建設事業費	1,359	28.1	522	△ 61.6	913	74.9	327	△ 64.2	770	135.5	493	△ 36.0	169	△ 65.7	226	34.9	199	△ 12.7	199	0.0	199	0.0	394	98.0
補助事業費	51	△ 17.7	66	29.4	77	16.7	74	△ 3.9	367	395.9	22	△ 94.0	22	0.0	22	0.0	22	0.0	22	0.0	22	0.0	107	386.4
単独事業費	1,266	30.8	433	△ 65.8	803	85.5	238	△ 70.4	352	47.9	456	29.5	140	△ 69.3	198	41.4	170	△ 14.1	170	0.0	170	0.0	268	57.8
その他	1,029	△ 12.1	1,182	14.9	790	△ 33.2	656	△ 17.0	653	△ 0.5	650	△ 0.5	648	△ 0.3	646	△ 0.3	643	△ 0.5	641	△ 0.3	638	△ 0.5	635	△ 0.5
歳出合計	7,504	23.2	5,874	△ 21.7	6,009	2.3	5,027	△ 16.3	5,388	7.2	5,068	△ 5.9	4,737	△ 6.5	4,715	△ 0.5	4,833	2.5	4,666	△ 3.4	4,620	△ 1.0	4,720	2.2

歳入歳出差引	365	63.7	380	4.1	144	△ 62.1	146	1.4	148	2.1	157	5.4	151	△ 3.8	150	△ 0.7	162	8.0	164	1.2	165	0.6	162	△ 1.8
単年度(繰越金除)収支	17		141		△ 168		2		3		8		△ 6		△ 1		12		2		1		△ 3	

財調現在高(年度末)	1,248	△ 7.6	1,428	14.4	1,484	3.9	1,434	△ 3.4	1,214	△ 15.3	984	△ 18.9	1,034	5.1	1,034	0.0	964	△ 6.8	974	1.0	984	1.0	894	△ 9.1
特目現在高(年度末)	468	31.6	461	△ 1.5	447	△ 3.0	437	△ 2.2	419	△ 4.1	427	1.9	410	△ 4.0	420	2.4	352	△ 16.2	364	3.4	356	△ 2.2	368	3.4



この先、義務的経費（人件費・公債費など）をどれだけ抑制できるかが大事なポイントになってきます。その意味では、公債費のピークが令和5年度なので、まずは、そこを乗り切るための蓄え（財政調整基金繰入金）が必要です。

現在の見込みでは、令和13年度までは財政調整基金はなくなり、財源が不足した時に補てんに充てられるので、資金繰りはできるでしょう。

また、令和4年度より有利な町債（過疎債）を活用することができるようになり、財政収支見通しの好転要因になり得ます。

③能勢町の課題ってなに？



能勢町の課題ってなに？①

課題① 人口減少

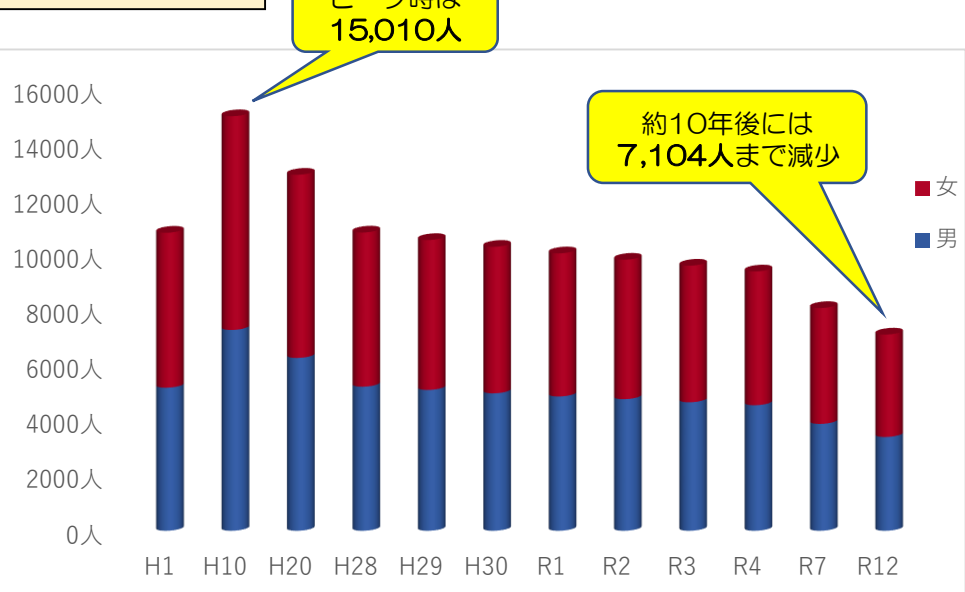
人口減少は、日本全体で起こっている課題ですが、能勢町も例外ではありません。能勢町の人口は、平成10年度のピーク時までは増加していましたが、それ以降は減少を続けており、令和3年度末まで24年間で**5,621人（37.4%）**も減っています。

令和元年5月1日現在に人口が1万人を割ってから、減少傾向は止まらず、さらに出生数も少ないため、令和12年には7,104人に落ち込むと予想されています。

人口の増減は、財政基盤である町税の収入額にも左右します。本町は、平成10年からの約20年間で人口減少に伴い、**町税の収入が16.3%減少**しています。税収が減少し自由に使える財源が限られた場合は、住民ニーズを踏まえ、施策・事務事業の選択と集中を図ることなどによって行政のスリム化を図る必要があります。

また人口ピーク時に合わせて作られた公共施設の適正配置について検討するなど、行財政運営のあり方を抜本的に見直す必要があります。

能勢町の人口推移



※ R4までは4月1日現在の人口、R7以降は国立社会保障・人口問題研究所の推計

今後はどうしていくの？

このまま人口減少が続き、過疎化が進まないよう、行政として対策を講じていきます。

能勢町の自然の豊かさや文化などの魅力発信や、「能勢町過疎地域持続的発展計画」に基づき、過疎対策事業を効果的に活用したI・Uターン人口の増加への取組みなどを通じて、地域活性化につながるまちづくりをしていきます。

また、人口減少社会に合わせた行政のスリム化や、老朽化していたり、あまり使われていない公共施設の長寿命化や除却などを進め、歳出を抑えることで、持続可能な行財政運営を目指していきます。



能勢町の課題ってなに？②

課題② 高齢者の交通対策

能勢町には電車が通っていないため、住民の、特に高齢者の重要な交通手段の一つとして、民間バスが運行されています。

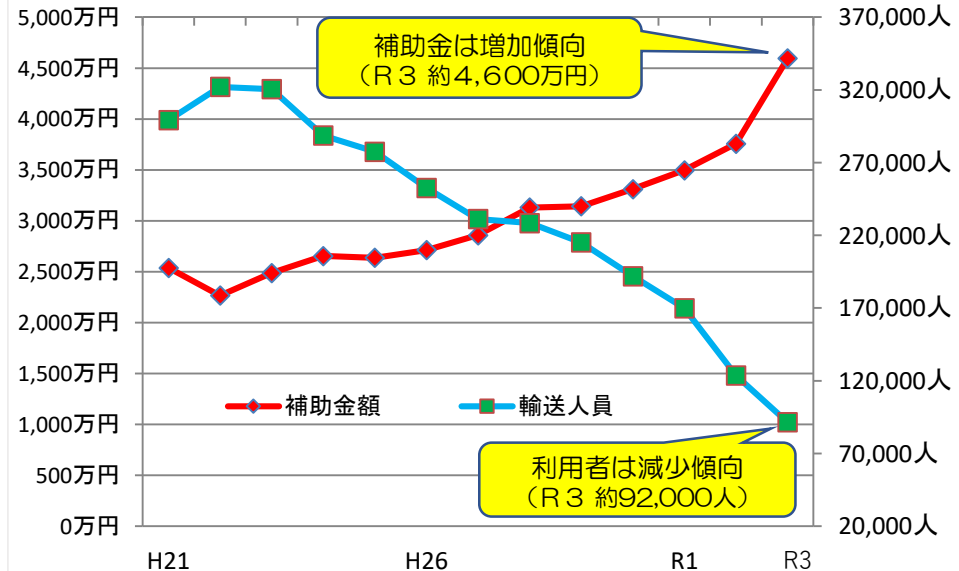
しかし、人口減少に伴い、民間バスの利用者も減ってきています。

民間バスを運行させるにあたり、能勢町から民間バス会社へ赤字額を補助しているのですが、右のグラフのとおり、民間バスの利用者は減少し、補助金は増加しています。つまり、町からの支出が年々大きくなっている状態です。

※令和2年度までは「宿野～豊中センター」などの一部区間のみが補助対象でしたが、令和3年度から西能勢線全体が補助対象となりました。

補助金（赤字）が大きくなるにつれ、それを圧縮するため、民間バスの運行範囲・本数も、以前に比べて随分と縮小されました。そのため、公共交通空白地と呼ばれる、公共交通がない地域や、あっても運行本数が少なく使いづらい地域など、移動に不便な場所が生じています。

民間バスの輸送人員とバス会社への補助金額の推移



今後はどうしていくの？

現在のバス路線の状態を維持し続けていくことは、増加する補助金を考えると財政的には困難と言えます。高齢者の方々の大切な交通手段を確保していくためにも、財政的に持続可能な手段をとらなければなりません。こういった状況を踏まえて、令和4年7月1日から「能勢町乗合タクシー」の実証運行が開始されました。今後は乗合タクシーを活用して、公共交通空白地の解消や、新たな形での持続可能な交通手段の確保を目指します。



④持続可能な行財政運営
を目指して！



持続可能なまちづくりを実現しよう！

なぜ取組が必要なの？

「まちの将来像」を構成する学校再編整備、火葬場建設、消防常備化が実行段階を迎えた平成26年3月に、人口減少等による財政規模の縮小を踏まえたうえで、「行財政改革プログラム」を策定し、行財政改革に取り組みました。その結果、大型投資事業を実現しつつ、財政調整基金（町の貯金）も平成27年度末時点で15億円余り確保しました。

その後も人口は減少し、超高齢社会を迎えるなか、行財政改革の取組を継承しつつ、将来を見据え、公共施設の再編整備事業に着手しました。公共施設の適正配置を行うことで、維持管理経費を抑制し、且つ行政サービスを効果的に提供できるよう取組を進めています。加えて人口減少等による地域力の低下、アフターコロナにおける行政需要に対応するため、既存事業の再構築が必要です。

将来世代に負担を先送りせず、持続可能な行財政運営を目指さなければなりません。

どのような取組をしているの？

持続可能な街づくりに向けて、能勢町では次のような取組を進めています。

- ・ 経常経費の削減及び業務改善
- ・ 事務事業の精査
- ・ 公共施設等総合管理計画の推進
- ・ 社会保障経費の抑制（健康長寿プロジェクト）
- ・ 地域共生社会・地域包括ケアシステムの実現



持続可能なまちづくりって、なんだか難しそう。でも必要なことなんだね！

みんなで前進、「できること」はなに？

みなさんの協力で持続可能なまちづくりは、前進します！

- ・ 「ごみの排出ルール」を守りましょう！
- ・ 「いきいき百歳体操」に参加して介護予防を目指しましょう！
- ・ 「我が事・丸ごと」で地域の課題をみんなで話し合い、公的支援と協働して、地域課題の解決をめざしましょう！

かんたんなことでも持続可能なまちづくりにつながるのね。



おわりに ～住民のみなさまへ～

能勢町の財政事情は、厳しい状況が続いている中で、事務事業の精査や見直しを行い、その都度、住民の皆様にご理解とご協力をいただき、将来世代に負担を先送りすることなく、行財政運営の持続性を高めてきたところです。

現状は、財政基盤である町税が人口減少・高齢化等により減収する中で、経常経費の抑制に努めなければなりません。

また、耐用年数を迎える公共施設は、老朽化が進み、その維持管理費も年々増えているため、そのあり方についても検討していかなければいけません。

他にも、地域共生社会の実現やダイオキシン処理対策、そして新型コロナウイルス感染症対策による新しい生活様式への取り組みが加わり、課題は山積している状況です。

このような状況からも、能勢町は、今まさに、変革期を迎えています。

令和4年度から能勢町は過疎地域指定を受けましたが、過疎債を活用することで、集落の維持及び活性化、住民のみなさまが将来にわたって安全に安心して暮らすことのできる地域社会の実現を図ります。

行政のあり方を見直しつつも、住民サービスを低下させることのない、実りある改革に努め、住み続けることができる、住み続けたい「能勢町」を実現してまいります。

住民のみなさまにも、本町の現状と課題を共有していただき、これまで同様、引き続きご理解・ご協力をいただき、能勢町を私たちと一緒に守り続けてくださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



**わたしたちのまち、能勢町の未来について
これからも一緒に考えていきましょう!!!**

能勢町
NOSECHO
OSAKA NO
TEPPEN

おおさかの
てっぺん